

1号様式

記録者 事務局次長兼議事調査係長 高橋 美樹

教育、民生常任委員会記録

招集年月日	平成29年7月20日(木)
招集の場所	議員控室
開会	午前9時30分
出席者	委員長 福田 淑子 副委員長 吉田 二郎 委員 柳田 政喜 委員 大橋 昭太郎 委員 橋本 四郎 委員 佐野 善弘 委員 平吹 俊雄
欠席者	なし
職務のため出席した者の職氏名	事務局次長兼議事調査係長 高橋 美樹
協議事項	・所管事務調査のまとめ ・これからの進め方について
その他	なし
閉会	午前11時03分

2号様式 協議の経過

	開会 午前9時30分
福田委員長	<p>皆さん、おはようございます。</p> <p>ただいまから、教育、民生常任委員会の会議を開きます。</p> <p>委員は全員出席ですので、委員会は成立をいたしております。</p> <p>今日の会議の事項ですけれど、お手元にお配りいたしました次第の所管事務調査のまとめを行って、それから、これからの進め方について、あと3回くらいしかできないと思いますので、会議事項のとおり進めたいと思います。</p> <p>皆さんのお手元にお配りしておりました、柳田委員より所管事務調査レポートが提出されております。</p> <p>皆さん、暑い中大変お疲れさまでした。そして、事務局の高橋さんには大変ご迷惑をかけました。ありがとうございました。</p> <p>全体的に言えることは、ため息しかないという状況で、特に圧倒的な素晴らしさを学んできたのですけれど、まず皆さんから行った感想、意見なども含めてお話をいただきたいと思いますので、十分な時間はあったと思いますので、感想、意見などを述べていただきたいと思います。</p> <p>まずは、小金井市について、1人1日当たりのごみ排出量が全国1位、それからリサイクル率は全国2位という小金井市ですけれど、お一人ずつお伺いしたいと思います。</p> <p>柳田委員からお願いします。</p>
柳田委員	<p>今、自分のレポートを見直していたのですが、小金井市はやはりすごい一言でした。</p> <p>やはり、いろんな面で勉強することがありすぎて、ただ、勉強できるものすべてが費用がかかる。</p> <p>実際に、我が町でごみの減量化に取り組もうという一番の命題が、ごみ処理の費用の軽減を図ろうということだったと思うので、どこをどうできるのかと見ていかなければいけないのですけれど。</p> <p>小金井市は、橋本委員が前から言っているように、生ごみ処理機の導入、あとは雑紙ですか、それと枝木、雑草、落ち葉など、その辺をどのように今後は扱っていくのか、それくらいが対応できる部分。</p> <p>その他に、広域ですからなかなか難しいものもありますが、職員の人数もあまりにも違い過ぎるので、職員にやってほしいことは多々あったにしても、なかなか難しい。</p> <p>あとは、やはり今後にはこれは必要だと思ったことは、ふれあい収集事業です。両市にあったのですが、高齢者の方のごみの収集をやりながら安否確認というのは、担当課、関係課でできるきっかけになるのかなと思いました。このくらいで、あとは次の人におまかせします。</p>
福田委員長	はい、佐野委員。

佐野委員	<p>はい、小金井市は減量化ということで、燃えるごみがだいぶ少ないですけど、回収が個々のお宅を回収しているという、今までいろんな所を研修した中で、ちょっと違う取り組みでした。その中で分別とか、出した所で分別することで、誰々のとなりますから、その辺の周知徹底がなされているということは、一番感心したところです。</p> <p>なかなかそこまでできることは大変ですが、戸別収集をしてからだいぶごみが減ったという状況だと思いますので、その辺を当地区でできるかどうかは別の問題ですけど、一番感心した内容でございました。</p> <p>以上でございます。</p>
福田委員長	大橋委員。
大橋委員	<p>両市に共通する部分においては、ごみを減量させようという意気込みが違うと思います。</p> <p>それが、人的配置にあるのではないかと、ごみ対策課というような両方に似たような感じの課があって、小金井市だと収集の職員も含めてですと30人もものっぱいの人数がいる。鎌倉市は環境部の中のごみ減量対策課が13人でしたか。ごみをとにかく減らそうというような意気込みが、人的配置に表れているように感じました。</p> <p>本町の場合、1名の担当職員であるということからしても、やはり人的な問題があるのだろうなと感じます。取り組みへの姿勢としてね。</p> <p>それから、やはり大崎広域の1市4町の部分においては県内でも下位のランクだということから考えても、広域がリードする形になるのかどうかはまた別にしても、そういったような中において、もっともっとごみ問題を検討していかなければならないのではないかと感じました。大崎広域の構成市町が全部下のほうだということは、こうなったのは広域なのだろうと思ってしまうところです。それが、町の担当者を責めるだけではどうしようもないのではないかと感じました。</p> <p>それから、生ごみ処理機、今まで私たちが勘違いしていた部分は、生ごみを乾燥させるのではなくて、今までの認識は堆肥化するばかりと聞いていたのが、それが乾燥生ごみとして収集している。その認識の違いによって、その機械の導入が激減しているのだろうと感じましたし、それはやはり有料化というものと表裏一体なのかなと感じました。ごみを出すのが有料化になることによって、それぞれの家庭がいかんにごみを減らすかということ、その手段として生ごみ乾燥機なりが導入されていくのだと感じました。</p> <p>それから、私たちの町でも草とかの部分が、鎌倉市に行って聞いた時には、枝とかそういうものを処理することによって、リサイクル率が30%を占めるということを知って、私たちの町も草の部分を含めて考えていかなければいけない事項というふうに感じました。</p> <p>以上です。</p>

福田委員長	平吹委員。
平吹委員	<p>はい、両市に言えることですが、とにかく啓蒙活動、これが執行側と町民とが協力しているということ。そこまでいくまでの過程が必要なのだと思います。</p> <p>今の我が町の職員の状況では、ちょっと無理なところもあるのかなと思っています。</p> <p>小金井市につきましては、これもあれもということで徹底してやっている。その代わり、リサイクル率も高いですが、お金も高くかかるというような担当者からの声があるということで、そのようになるのかなと感じはしました。</p> <p>とにかく、小金井市につきましては、一から十まで本当に職員共々、市民が協力しているという、その辺の一体制があるのだと思います。</p> <p>それから、鎌倉市につきましては、子供たちの環境教育ということで、小中学校、幼稚園、保育所などについては紙芝居やそういうもので分かりやすいように環境問題を指導しているというようなことですし、鎌倉市廃棄物の減量化、資源化及び処理に関する条例ということで、廃棄物における条例があるということで、市民に説得力があるのかなと思いました。</p> <p>あとは、我々の減量としては、やはりワーストに近い数字ということで、大崎広域の中で非常事態宣言というような横断幕とかそういうものを発しながら、この対策等が必要不可欠なのかなと思っています。</p> <p>我が町だけできるものでもないと思いますので、その辺は広域の中でしっかりした減量化、リサイクル率を考えていってほしいと思いました。</p> <p>以上です。</p>
福田委員長	副委員長。
吉田副委員長	<p>はい、他の委員さんとダブると思いますけれど、大きくは市と町でこのような差があるのか、お話を聞いて唖然としてきましたけれども、小金井市はごみ対策課、鎌倉市はごみ減量対策課、独立した課でごみ処理についての対策を持っている。本町の職員もやっていると思うのですが、最終的なものは広域となると、ちょっと職員の意識的なものでもあるのか、あるいは職員の人数が足りなくてできないのかなと考えておりました。</p> <p>どちらの自治体もですが、年間のPR紙というか、広報紙がこのくらい出るといのは、本町では2億数千万円に驚いていますが、小金井市は28億円の年間の予算をつぎ込んでいるということで、なおさら驚いて帰ってきたわけでございます。</p> <p>職員だけでなく、最終的には住民の意識的な面が一番大きいのではないかと、それにもっと足して行政のほうで住民にサービス面というか、そういうものがあるというか、最後にやはりこういうものに職員も一緒に行ってはどうかと思って帰ってきました。</p> <p>以上です。</p>

福田委員長	<p>ありがとうございました。</p> <p>小金井市についてだけお話された方もありますし、それから両方にまたがってお話された方もありますので、鎌倉市について、柳田委員と佐野委員にお話をいただきたいと思います。</p>
柳田委員	<p>鎌倉市につきましては、小金井市とほぼ同じようにやっているということで、可能なことはすべてしているのかなと。</p> <p>ただ、せとものやガラス類を溶融固化処理して路盤材に使用している点ですかね、特化しているものは。ただこれも費用がかかるのかなと。</p> <p>他に感心したことは、生ごみ処理機ですね。</p> <p>やはり、5年経過で再度利用している、こういうところが生ごみ処理機を徹底して利用しているのかなと。</p> <p>他には、経路だったり、生ごみの排出ゼロの非減量、廃棄物減量化等推進委員制度があり、年間5千円で、地域にそういう人を配置している部分です。</p> <p>それから、業者に対して徹底的に指導しているということで、納入検査機を2千万円かけて導入しているということです。</p> <p>それから、ちょっと枠から外れるかもしれませんが、ごみに関しては最終的には災害廃棄物処理計画もきちんとたてていることです。</p> <p>あとは、新たに移住してきた方には、職員が20分くらいかけて、ごみ処理の指導を対面方式でしているということも、やはり素晴らしいと思いました。</p> <p>以上です。</p>
福田委員長	佐野委員。
佐野委員	<p>はい、鎌倉市で一番驚いたのは、廃棄物の焼却の埋め立て、最終処分場が無いということで、ゼロというようなことを、先ほど柳田委員も言いましたが、燃やせば10%くらいは残るということで、焼却灰を溶融固化処理をしているということで、そういうことで最終処分をゼロにしていることが、今までそういうことが無かったので、初めてだったことです。</p> <p>それから、いろいろなごみを売却したりなんかして、収支というか、費用をしっかりと計算した中でごみ処理をしていて、27年度はごみの有料化ということでやって、1袋80円の収入があって、それを焼却施設の建設のための積立という大義名分を作って、有料化の有効活用ということで。</p> <p>それから、それによって燃やすごみが15、16%減ったという両得というか、そういう施策をしていたり、いろいろと計算をして、試算とかをしてやっていることが、非常に勉強になった内容でした。</p> <p>以上です。</p>
福田委員長	副委員長。
吉田副委員長	<p>私は、鎌倉市はバイオマス方式で、木を堆肥化にすることに興味を持っていて、そのとおり市役所の前にどうぞお持ち帰り下さいとあって、あれ</p>

	<p>を見た時に興味を持ちました。</p> <p>ロビーで待っていた時に、いろいろなりサイクルできますというような、物をあっせんしますというような、ごみをできるだけ出さないようなことをやっていて興味をそそりました。それで、全国の2位、3位、トップになるくらいの実績がある感じで、研修もプロジェクターを使って担当課の人が一生懸命お話くださったことが印象に残りましたし、とにかく、私が考えている以上のことをしているのだなど。</p> <p>そこまでになるのは、並大抵のことではなかったと思いますが、今回も良い研修をさせていただきました。</p> <p>以上です。</p>
福田委員長	<p>他にありませんか。</p> <p>はい、大橋委員。</p>
大橋委員	<p>事業系ごみについても、例えば、小金井市は立ち入り調査というようなことを行っている。</p> <p>それから、年間2千万人の観光客が来る鎌倉市においては、計画書の提出の義務化とかそういうことをやって、訪問指導をしたりなど、事業系ごみについても市が徹底的に指導を、調査をしている。この辺も、業者まかせでないなと感じました。</p> <p>当然に、美里町にある事業者が出すごみも、1人1日当たりのごみ排出量に換算されてくるわけですから、鎌倉市においては982グラム、どう考えても2千万人の観光客が来る市の1人当たりの排出量が、16万の人口の中で、それだけにとどまっていることが脅威しかないという思いです。</p> <p>やはり、事業者に対して、もっともっと協力を呼びかけていくような形をとらなければ駄目なのだろうなと感じました。</p>
福田委員長	<p>他にありませんか。</p> <p>はい、平吹委員。</p>
平吹委員	<p>はい、鎌倉市の廃棄物減量化等推進委員が26年度で212人ということで、年4回くらいは研修や見学をして、こういう方がリーダーをとりながら行政区をまわっていき、指導もしていく、この推進委員制度というものを少し見直してもいいのかなと思います。</p> <p>どうしても面倒くさいものなので、誰かにちょっとやってほしいと言ってもちょっとできないと思うので、行政区でそういう委員を推薦して、そのためにも町民への啓蒙活動がでてくるので、その辺もあるのかなと思いました。</p>
福田委員長	<p>他にありませんか。</p> <p>はい、柳田委員。</p>
柳田委員	<p>言い忘れたのですが、生ごみの点ですけど、小金井市では学校に生ごみ処理機がありまして、長期休校の時と毎週土曜日に、それを地域の人に開放していると。</p>

	<p>やはり、そういう拠点になる部分で、そのような収集作業をしていることによって、大幅に減量できるのかなと。</p> <p>学校に限らず、拠点というのは地域にも結構あると思うので、そういう部分にそういうものを設置して収集するというのは、有効なのかなと感じました。</p>
福田委員長	<p>他にありませんか。</p> <p>一通り、皆さんからお話をいただきました。</p> <p>休憩いたします。</p>
	<p>休憩 午前 9時57分</p> <p>再開 午前10時21分</p>
福田委員長	<p>再開いたします。</p> <p>委員全員出席ですので、委員会は成立をいたしております。</p> <p>皆さんから、小金井市と鎌倉市の意見を聞いて、今、担当課にも確認してきたところ、1人当たりの排出量につきましては本町でも目標を持っているという状況にありました。</p> <p>ただ、転入してきた人へのごみの分別の説明は、分別表を渡してそれで終わりだという状況でした。</p> <p>それから、小型家電につきましては、いくらか増えているのかということについては、中身はよく確認していないけれども、出す人ができたという状況しか今のところつかめておりません。</p> <p>それで、この視察のまとめですが、皆さんの意見をまとめて。  (「ちょっと、委員長」の声あり)</p> <p>はい、橋本委員。</p>
橋本委員	<p>皆さんが勉強した中で、教えてもらいたいことがあります。</p> <p>根本的に、鎌倉市、小金井市とこの町が違うところは何が違うのですか。条例ではありませんか。条例。条例の中身が違う。そのことの指摘はなかったのですか。職員は条例に基づいてやっています。そういう条例があるから、それに基づいてやっているのです。我がほうには条例が無いから職員がやらなくてもいいのでしょうか。そういうことではありませんか。</p> <p>そこから指摘をしていかないと、ただこれがいい、あそこがいいの問題ではないです。</p> <p>もう一つ聞きましょう。</p> <p>し尿は、まだ汲み取り式の戸数はどのくらいありますか。人口17万人なら、少なくとも5万の世帯がありますね。3人でも、5万世帯。5万の家庭でどのくらいし尿処理をやるのか、汲み取り。  (「それは聞いてきていない」の声あり)</p>
福田委員長	<p>休憩いたします。</p>
	<p>休憩 午前10時24分</p> <p>再開 午前10時28分</p>

<p>福田委員長</p>	<p>再開いたします。</p> <p>皆さんの意見を委員長がまとめて、報告書を作成することでよろしいですか。</p> <p>(「はい」の声あり)</p> <p>作成してから、皆さんにお示ししたいと思います。</p> <p>続きまして、今後の取り組みについてですけれど、12月定例会議に向けて報告書を提出いたします。提言を含めることになりますので、11月未までには作成しなければいけません。</p> <p>これからやるべきこととして、10月に議会報告会がありますので、町民の皆さんからも意見を聴取して報告書に取り入れたいと思います。</p> <p>よって、11月初旬にはまとめを作成しなければならないのかなと。</p> <p>その前に、先ほどお話がありました美里町だけの取り組みではなくて、大崎広域の取り組みも一緒にしていかなければ駄目なのではないかという意見がありました。大崎広域事務組合の議会の議員との意見交換もしたほうがいいのかと思いますが、皆さんのご意見をお伺いいたします。追及するのではなくて、意見交換です。</p> <p>(「休憩をお願いします」の声あり)</p> <p>休憩いたします。</p>
	<p>休憩 午前10時30分</p> <p>再開 午前11時00分</p>
<p>福田委員長</p>	<p>再開いたします。</p> <p>委員全員出席ですので、委員会は成立しております。</p> <p>8月会議終了後に、大崎広域事務組合議会の本町からの議員との意見交換会を予定しております。8月21日、議会終了後になります。</p> <p>そのために、常任委員会の会議を8月3日、9時30分から行いますので、よろしく願いいたします。内容は、今日のまとめを皆さんに見ていただいて、それから、大崎広域に求める内容を作成して、皆さんに協議をしていただきますので、あらかじめ、皆さん、考えてきてください。大崎広域事務組合としてできることをまとめてきていただければ、幸いです。</p> <p>他にありませんか。</p> <p>はい、柳田委員。</p>
<p>柳田委員</p>	<p>大崎広域で取り組む内容と、町独自でできることは何なのかという内容に分かれてくると思いますが、町独自でできるものに関しては、いつ頃まとめる予定ですか。</p>
<p>福田委員長</p>	<p>とりあえず、8月3日は大崎広域に絞ってですね。</p> <p>他にありませんか。</p> <p>町から大崎広域に対しての提言、それから本町に対しての提言は12月定例会議に向けての報告書に記入します。</p> <p>それから、10月の議会報告会における常任委員会としての提言を、案</p>



	<p>を出して皆さんに意見をもらいます。それをまとめるのが、11月初旬にまとめて末には作成して、12月定例会議に提出するというスケジュールになります。</p> <p>他にないようですので、これで終わりたいと思います。</p> <p>副委員長、あいさつをお願いします。</p>
吉田副委員長	<p>以上をもちまして、本日の委員会を終了させていただきますけれども、まだまだ暑さが続くようでございます。</p> <p>(「これからだ」の声あり)</p> <p>皆様、健康管理に十分気をつけてお過ごし下さい。</p> <p>本日は、大変どうもご苦労様でした。</p>
	<p>閉会 午前11時03分</p>

会議の経過を記載して相違ないことを証するため、ここに署名する。

平成29年7月20日

教育、民生常任委員会

委員長 \_\_\_\_\_